

大妻同窓会福島だより



ごあいさつ

大妻同窓会福島代表 武藤みや子

「大妻同窓会福島」の皆様、ごきげんよう。

昨年の11月1日に開催されました総会には、遠路ご出席いただきましてありがとうございました。今回も皆様方に喜んで頂きたい、と役員一同準備を致しました。特に、絵ろうそくの絵付けでは悪戦苦闘されたようでしたが、世界に1本しかない作品を手になされて、皆様ご満悦の様子でした。

ところで、会員の皆様方もすでにご覧になられたことと思いますが、地元紙に「大妻女子大学（他2大学を含む）と福島県が学生就職支援についての協定を締結する」という内容の記事（福島民友新聞平成28年1月25日付）が掲載されました。そして、27日には大学で締結式が行われ「県と大学が連携し、大学生の本県での就職活動を支援、本県へのUターン・Iターン就職の促進を図る」（同紙1月28日付）という内容でした。福島県の

一日も早い復興のため、若い皆様の力が必要なのです。是非、多くの学生の皆様に福島県で活躍されることを期待しております。

また、大学の地域連携プロジェクトへの協力につきましては、次年度もできるだけ協力をさせて頂きたいと考えております。

福島県は、あの震災と原発事故から5年を迎えました。この間、各県の大妻同窓会の皆様方始め、全国から温かいご支援を頂き復興に向けて頑張っ参りました。しかし、未だに10万人近い住民の方が避難生活を続けているなど、まだまだ課題が多く、元の姿の福島県に戻るまでには長い歳月を要します。これからも、大妻同窓会福島は一日も早い復興のための活動を継続していきたいと思ひます。

学生時代の思い出

大妻コタカ先生の「恥を知れ」の教えを胸に刻み、友と過ごした貴重な時間は、今も私たちの心の糧となっています。

今回は、4人の皆様にそれぞれ思い出を振り返っていただきました。

昭和19年卒 笠原 禮子

私が入学したのは、太平洋戦争真っ只中、3日間校則の説明、あまりの厳しさに不安で一杯でした。でも、授業が始まると楽しい事ばかり、「教師にはならない。」との了解を得ての入学でしたが、授業が進むにつれ教師になってみよう。と思う様になり、教職40年勤めました。今の平安な日々感謝です。

在学中の一番の思い出は、明治神宮外苑で小雨の中、学徒出陣の学生を見送った事です。

「海征かむ山又空を征かむとの 若人の門出雄々しくもあるか。」

文部大臣の送る言葉でした。どんなお気持ちだったでしょう。何人の方が御無事でお帰りになられたでしょう。戦争のない平和な世が続きます様、世界平和が早く訪れます様祈っております。

昭和45年卒 三上 洋子

卒業して早半世紀近い今日、まぼろしになりつつある中での思い出は、学業二の次での上京。それは「大妻」あればこそその自分。学生生活は毎日楽しい、その一言でした。その中で「お母様」とのお別れ、新宿駅騒動、今に思えば三島事件など。その後、テレビでの皇居周辺、武道館、靖国神社もなつかしく、目を閉じれば少し暗い地下の学食、ラーメン、ロールパンサンドのキャベツの歯ごたえを妙に覚えています。後の転勤での東京。躍る心で訪ねました。おしゃれな学食など、夢の様でした。そして「恥を知れ」のお言葉が私の人生の中で生きていたからこそ今日の私があり、今回書く機会を得て皆様、両親のおかげと切に思えたこと、ありがとうございました。

昭和53年卒 阿部 晶子

日差しの明るさに春の気配を感じるようになりましたが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。

先日、娘の大学時代の写真を懐かしく眺めていましたら、無性に自分の大妻時代の写真も見たくなり、押し入れからアルバムを取り出してきました。そこには、私が短大の二年の時（昭和52年11月）に文化祭実行委員を受けまして文化祭にお呼びしました黒柳徹子さんの写真がありました。大妻講堂で講話して頂き、終了後お茶をお出しして実行委員の皆とお話できたのを記憶しております。

実行委員をするにあたっていろいろ細かい作業があり大変な事もありましたが、最後に黒柳さんとお話できたのも良い思い出となりました。

昭和56年卒 越尾 茂子

短大2年間を加賀寮で過ごしました。当時は400人ぐらいの寮生がいたと記憶しています。初めて親元を離れた不安で、しばらくの間は毎日のように地下にある公衆電話に並んで実家に電話していました。公衆電話は6～7台位あったと思いますが、8時以降は長い行列ができていました。食事にも特に朝食や試験前の夕食の時は階段の随分上の方まで並んだ記憶があります。寮でバランスの良い食事を頂いたおかげで、健康に過ごすことができ感謝でした。夜は友人の部屋を訪ねたり、同室のみんなとおしゃべりしたり飲んだり食べたり楽しい思い出です。学校まで片道30分の道のりも友達とお話ししながらだったので、それほど苦痛に感じなかったのでしょう。

門限など厳しいところもありましたが、よいお姉さんに恵まれ、他の学部や学年の違う人たちと関わりながら生活できたことは貴重な経験になりました。

平成27年度 総会を終えて

小野 智子

同窓会に入会させていただき5、6年経っているとは思いますが、今までは仕事や育児に追われ、総会に参加したことはありませんでした。

毎年送られる会報を楽しみにしていましたが、いわきから行かれる方も、同世代の参加者もいない中、今回初めて総会に出席することは、少し勇気のいることでした。しかし、そのような心配は全く不必要であったことは会場へ足を運び入れてすぐにわかりました。

今回は東京より、大妻コタカ記念会の井上会長様もお越し下さり、大学の近況をご報告下さいました。新築された加賀寮に驚き、閉校した狭山台校舎の跡地利用が決定されたお話もうかがうことができました。

「大妻」という共通の結び付きがあるというだけで、初対面の方ともこんなに簡単に打ち解け合い会話が弾み、楽しい時間を過ごせたことに驚く



と共に感銘を受けました。

紅葉の美しい鶴ヶ城の裏手の「鶴ヶ岡茶寮」という素敵なお店で舌鼓を打ち、会津の絵ろうそくの絵付け体験までさせていただき、本当に充実した一日を過ごさせていただき、ご準備下さった代表の武藤様に改めて感謝させていただき総会の報告といたします。



大妻女子大学「地域連携プロジェクト」の協力について

大妻女子大学は、昨年度『被災地「きずな」プロジェクト』と題して、原発事故により会津若松市に避難している大熊町の大野小学校と熊町小学校の2校に、機能性Tシャツを贈呈致しました。平成27年3月18日に実施された贈呈式には、両小学校の児童、教職員はじめ学生と水谷准教授、記念会からは井上会長が出席されました。卒業式を目前に控えた忙しい時期にも関わらず、温かく迎えて頂き和やかに式が終了しました。その後、学生は各クラスで子供たちと交流をして楽しい時間を過ごしました。

この活動は今年度も継続され、2回の授業が実施されました。

1回目は、両小学校の全校児童を対象に、ペットボトルを溶融して引っ張り、繊維を作る実験をしました。子供たちはどんどん伸びて繊維になる様子に驚いていました。

2回目は、両小学校6年生を対象に家庭科の授業の一環として実施されました。「洋服ができるまで」と題し、今秋に完成するポロシャツの製造工程や「色の不思議」「衣類の整理」等について学び、子供たちは映し出される画面に歓声を上げていました。また、学生の授業も立派で、本物の教師そのものでした。

また、今年度は浪江町と葛尾村の小学校にもTシャツを寄贈させて頂いたとのことです。

次年度も、この活動が続く予定と窺っております。この絆が途切れることなく続いてほしいと願っております。

(文責 武藤みや子)

大妻同窓会福島役員 (平成27年度)

代 表	武 藤	みや子
副 代 表	渡 部	幸 子
副 代 表	大 竹	美登里
会 計	越 尾	茂 子
会 計	三 浦	節 子
監 査	阿 部	晶 子
監 査	小 松	宏 子
相 談 役	佐 藤	瑞 穂
相 談 役	岸 本	有 代

大妻同窓会平成27年度のあゆみ

平成27年

- 6月26日 第1回役員会
- 8月21日 第2回役員会
- 10月5日 第3回役員会
- 11月1日 平成27年度総会・懇親会
- 12月16日 第4回役員会

平成28年

- 1月14日 第1回会報編集会議
- 3月3日 第2回会報編集会議
- 3月31日 会報「大妻同窓会福島だより」第8号発行

平成28年度の計画

10月30日 平成28年度総会・懇親会
割烹・会津料理「田季野」

随 時 役員会

平成29年

3月31日 会報第9号発行

<ご 寄 付>

切手、総会時にお菓子をいただきました。
ありがとうございました。

大妻同窓会福島 会費納入のお願い

◎ 年 会 費 1,500円

入会を希望される方、お忘れの方は下記にお振り込みくださいますようお願いいたします。

加入者名：大妻同窓会福島

口座記号番号：

編 集 後 記

この度は会計を仰せつかり、非力ながら総会、支部だよりの発行にこぎつけました。

玉稿をお寄せ頂きました皆様に感謝申し上げます。

28年度の総会にも多くの会員の皆様のご出席をお待ちしております。

今後とも大妻同窓会福島をよろしくお願い申し上げます。
(三浦 節子)

編集発行人	大妻同窓会福島会報 武藤みや子
発行所	大妻同窓会福島
発行日	平成28年3月31日
印刷所	有限会社 わかさ印刷 (会津若松市町北町上荒久田字崖下16-2)